



つどいの樹

第11号

～ 学ぶ会だより～

2023年3月1日発行



富士山の「女人天上」

2018年8月9日、日本橋から歩き始め、140 km先の富士山頂を目指した。富士講の道だ。大月で甲州街道と別れ、富士吉田で御師の宿に泊まった。7日目の昼過ぎ、剣が峰に登頂。還暦での日本百名山完登である。

途中、2合目で登山道を離れ、「女人天上」の碑を訪ねた。かつて富士山は女人禁制とされ、2合目に改所があった。そこで女性はこの「遥拝所・御来迎場」に回った。そういう中、1832年江戸の一人の女性が男装して富士講の仲間に守られて登頂した。

1867年、イギリス公使パークスの妻ファニーが夫とともに登頂。1872年、女性の登山がようやく解禁された。1980年、所在が分からなくなっていた現場を地元の研究会の人びとが古文書・絵図などをもとに特定し、この碑を建てた。

(写真・文：鳥塚義和)



大国の侵攻への国民の「動員」

安井 俊夫（「学ぶ会」代表）

1975 年、ベトナム戦争の授業（中 3）で、ベトナム側がアメリカを圧倒している理由を議論しているときだった。子どもがこんなことを言い出した。

「ベトナムをもちこたえたものは、かつて日本やドイツがやった軍国主義顔負けのようなことではないか。今はベトナムが勝っているから、みんなベトナムはえらい、よくやったと言っているまでだ。ベトナムの人も、かつて日本人が非国民とか、そういうことを言われるのがこわくて戦った人もいるのではないか」

想定外の発言に驚いた。だが、侵攻に対して、村の人たちがベトナムの兵士に協力して、米軍と対峙する状況を見たとき、なぜかつての日本の国民動員の姿をそこに重ねるのか。

この発言にはすぐに反論が出た。「日本の場合は戦争に行きたくないのに行った。軍と国民が分かれている。ベトナムは違う。軍と国民が一つになっている」

「日本とは違う。平和を求めて一生懸命戦っている」—「軍と国民が一体」「平和を求めて戦う」など、軍に協力して村を防衛するためであり、日本のように他国を侵攻するためとは違うとの指摘だった。

そう言えば抗日戦争でも、中国華北の村が八路軍に協力して、地下道戦で日本軍を翻弄したことが想起される（教科書 224 ページ）。この点からウクライナ戦争を見ると、国民は「18～60 歳の男性は出国禁止」とされ、ゼレンスキー大統領が「ウクライナ人に何ができるか。軍を支援し、ウクライナ軍や領土防衛隊に入りましょう」と呼びかけているのをどう見るか。ベトナム戦争や抗日戦争の場合と比定して、どう考えるべきなのか…。

* 上記ベトナム戦争の授業記録は、安井『子どもと学ぶ歴史の授業』（地歴社）220 ページ以下。

風のいろ 大国の侵攻への国民の「動員」	安井 俊夫・・・2
今・学校で・教室で コロナ世代の「卒業まで…あと 50 日」	田所 寛子・・・3
交流の広場 たちかわ市民交流大学に参加して	菊池 ケイ・・・4
大学のキャンパスから 学び舎教科書からの教材づくりの試み	中 善則・・・5
歴史の窓 唱歌「蛍の光」で読む『ともに学ぶ人間の歴史』	大日方純夫・・・6
授業づくりの土おこし モノから学ぶ歴史	
⑨マックからみえるアメリカ社会の歴史	瀬戸口 信一・・・7
ようこそ教科書の舞台裏へ アジア太平洋戦争への思い	
その 8 知られざる日泰戦争の傷跡を訪ねて	高嶋 道・・・8
学びを深める バトンをつなぐ中学生	
第 3 回 平和な国際社会を君たちがつくるはず	平井 敦子・・・9
随想 連載⑩「仁徳天皇陵」の話	黒田 貴子・・・10
読者の声	・・・11
学ぶ会からのお知らせ	・・・12

コロナ世代の「卒業まで…あと 50 日」

田所 寛子（東京都公立中学校教員）

コロナ禍の中学校生活を振り返って

私は都内公立中学校で3年生の担任をしています。担当している子どもたちは2020年に入学しました。中学校入学という人生の節目で、新型コロナの感染拡大から2か月間の一斉休校を余儀なくされた子どもたちです。4月・5月は自宅待機、6月に規模を縮小した入学式が行われましたが、その後1か月は分散登校。クラスメイト全員と顔を合わせたのは夏休みも目前に迫る7月でした。

1年生では学校行事はほぼ中止。2年生になっても学校行事は規模縮小や中止になるばかり。「With コロナ」という思考が学校生活に入ってきたのは最後の1年間でした。3年生では制限付きではありましたが、体育祭、修学旅行、文化祭の3つの大きな行事を行うことができました。青春を謳歌するはずの3年間はコロナとの戦いであつという間に過ぎて行き、この3月に中学校を卒業します。

2学期終業式でのこと～学校みんなで乗り越えていく高校入試～

12月23日の終業式。各教室をオンラインで繋ぐリモート全校集会にも慣れました。式の最後に、養護教諭からマスクの着用について、全校生徒に次のような問いかけがありました。養護教諭の許可も得たので、要旨を紹介します。

「今日、どのクラスも学級閉鎖になることなく終業式を迎えられてとてもほっとしています。日本政府が屋外ではマスクなしでもよい、と発表したので、街中ではマスクをせずに歩いている人も見かけるようになりました。一部の生徒からは、給食も黙食ではなく皆とお話しながら食べたい、という声も聞かれています。その気持ち、よくわかります。でもね、皆さん。1年生の皆さんは5月に遠足に行き、親睦を深めました。でも3年生が1年生の時は行けていません。2年生は先月職場体験学習があり、受け入れて下さった事業所で充実した3日間を過ごしました。でも3年生が2年生の時は行けていません。

そう、3年生はずっと我慢、我慢を求められてきた学年なのです。そんな3年生はこの冬、大事な時期を迎えます。高校受験です。3年生にとって人生においてとても重要な時期を、みんなで応援してあげたいですよ。そのために今、下級生ができることは、感染症対策を徹底することではないでしょうか。本校ではもう少し、マスク着用、給食の黙食を続けたい、と思います。ずっと我慢してきた3年生を応援する気持ちで、3学期も皆さんのご協力をよろしくお願いします。」

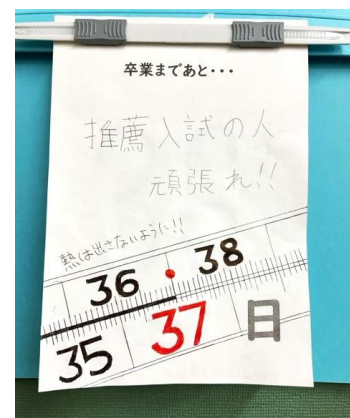
3年間この子どもたちと一緒に過ごしてきた担任として、非常に心強く、温かい気持ちになりました。この話をじっと聞いていた3年生の子どもたちも同じだったのではないかと思います。

一日一日を大切に

2学期も終わりに近づいたある日、たまたま放課後に残っていた生徒との雑談から、卒業式までの日めくりカレンダーを作ることになりました。3学期の始業式から卒業式までの登校日を数えると、ちょうど50日。あまりの少なさに実感が湧かなかったのは、子どもたちだけでなく担任の私もそうでした。

12月も終わりに近づいた学活の時間に、1人1日分以上（中には3日分を担当する生徒も！）、絵を描いたり、メッセージを書いたり…思い思いに仕上げていきます。登校できていない生徒にも割り当てて、書いてもらうことにしました。

いよいよ1月から3学期が始まりました。多くの子どもたちにとって、高校入試という人生で初めての大きな試練の真只中にいますが、一日一日を大切に過ごしてほしいと願っています。



1月26日のカレンダー

たちかわ市民交流大学に参加して

学ぶ会会員 菊池 ケイ

たちかわ市民交流大学 中世編 1

昨年 11 月から 12 月に立川市の市民推進委員会が主催する講座に参加しました。たちかわ市民交流大学「おとなの中学社会科 昔とちょっと違う歴史！ 第 2 弾～中世編 1～」という講座で、講師は学ぶ会会員で元中学校教員の檜崎由美さん。

檜崎さんの講座は、もともと、数年前の「おとなの中学歴史学び直し」からはじまったもので、受講者の多くが 60 代・70 代・80 代です。そこで、一昨年からは「昔とちょっと違う歴史！」という講座名になり、50 年前の教科書と今の教科書で、どこが変わったのか？ また、「おとなの…」なので、教科書の内容でもっと知りたいと思うことを学習します。一昨年は「古代史編」、今回はその続きです。講座は、パワーポイントで 50 年前の教科書と学び舎の「源頼朝」の肖像の比較から始まりました。

私は、毎回 2 時間の講座のあと、帰宅してすぐ、学び舎の『ともに学ぶ人間の歴史』を見ながら復習することにしています。

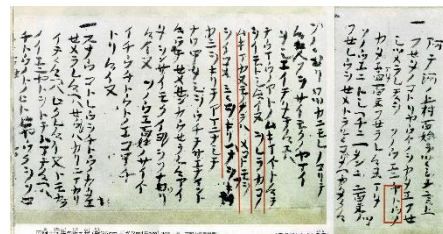
「御成敗式目」を現代語訳で読んで

今回の講座で一番心に残ったのは「御成敗式目」でした。聞いたことはあるが…という程度の歴史単語でした。学び舎教科書には「執権となった北条泰時は、1232 年、御成敗式目を定め、御家人の領地争いを裁く基準などを明らかにしました。こうして鎌倉幕府はようやく安定しました」と書かれています。泰時がこの式目を作った理由のひとつが、鎌倉時代の気候変動による大飢饉だったことを知りました。教科書の 67 ページに載っています。

この日の講座の最後に、現代語訳の「御成敗式目」51 か条が配られて、自分が気になったところにするしをつけてくるように「宿題」が出されました。家に帰り、さっそくするしを付けてみました。第 1 条「神社を修理して祭りを大切にすること」、第 4 条「守護が勝手に罪人から所領を没収することの禁止」、第 42 条「逃亡した農民の財産について」、そして、女性について書かれている項目が多いのにもびっくりしました。

「阿テ河荘の訴え状」と「御成敗式目」

次の回は、「庶民の活動」が中心で、教科書 66 ページの



「阿テ河荘の訴え状」がメインでした。教科書に詳しく書いてありますが、荘園領主と湯浅氏との関係やその後の訴訟問題も話されました。

「訴え状」も 17 条まで口語訳が配られました。見ていくと、農民が逃散したことは「御成敗式目」第 42 条で保障されているし、地頭湯浅氏が農民に激しい暴力や悪行をしていることや、荘園領主への対応なども「御成敗式目」の第 5 条や 13 条などで否定されているようです。阿テ河荘の農民たちが、地頭湯浅氏に対して訴え状を出し、荘園領主が六波羅探題に湯浅氏を訴えたのは、「御成敗式目」があったからで、「御成敗式目」は本当に裁判にとって重要なものだったことがわかりました。

では、湯浅氏は負けたのでしょうか。泰時は、「御成敗式目」を作ったときに、「これにもれた事項は追加する」と弟重時に手紙を出しています。その後、「追加法」は 700 か条以上もだされたそうです。湯浅氏は、1239 年に泰時が出した追加法 119 「地頭を違背せる咎」をもとに反論し、結局湯浅氏は敗訴にはならなかったそうです。

まさか、泰時もこんなにひどいことをする地頭のために出したのではないでしょうが、鎌倉時代が訴訟社会で、「御成敗式目」はただの教科書に書いてある「暗記」単語ではないことがわかりました。

北条泰時のファンになりました

講座のあと、私は北条泰時についてより知りたくなりました。教科書も大切ですが、資料の大切さを思いました。現代語訳の「御成敗式目」は、素晴らしい資料だったと思います。

檜崎さんの講座は、いつも“もっと学びたい”ということを残してくれるので参加したいのです。

大学の キャンパス から

学び舎教科書からの教材づくりの試み

中 善則（花園大学）



（教科書227頁）

学び舎教科書を分析する

大阪公立大学「社会科・地歴科教育法」は、テキストの学び舎教科書（以下、本書）を批判的に分析することから始まる。学生からは、本書の編集方針に賞賛の声がおきると同時に、以下のような批判もあがる。例えば、「エピソード・具体的事象中心で、太字レベルの重要事項がカットされている」「日本はなぜ朝鮮を手中に納めようとするのか、図版・松岡洋右はなぜ涙を流しているのかなど、本文や図版が何を表わしているのか解説していない」「イタリアのファシズム、（世界恐慌時の）ソ連の経済政策など、重要事項の記述が欠落している」等々である。

しかし、講義の回数が進むにつれ、単に事項を整理し覚える授業でなく、仲間とよりよい社会をつくるために、歴史事象をもとに議論しあう授業には、具体的な教材こそが必要だと確信し始める。その時、学生は、限られたページ数の中で読者の問いを生み出す史資料がちりばめられた本書の構成の巧みさをあらためて実感することになる。

学び舎教科書の補充教材をつくる

次に、講義では、本書で授業するという前提で、補充教材を作る取り組みを行う。本稿では、「ヒトラーに抵抗した若者たち」（227頁）のコラムを活用しての提案（文学部日本史コース2回生 三井梨央奈さん）を紹介する。

三井梨央奈さんが考えた授業の流れ

○白バラ抵抗運動（1942年6月～1943年2月）とは？

○当時のドイツの状況

○白バラ抵抗運動に対する当時の人びとの反応の分析

＜ドイツ国内の反応＞

A ショール兄妹たちに判決が下された際に、ミュンヘン地区学生リーダーが学生たちにデモを呼びかける声明文（抵抗運動に批判的）

B ルードヴィヒ・マクシミリアン大学長からハンス・ショールに宛てた伝達（大学からの永久追放）

C ベルリンのジャーナリスト、ウルズラ・フォン・カルドルフの日記（抵抗運動を支持）

＜外国の反応＞

D 英国空軍によって1943年7月に投下されたビラ（抵抗運動に好意的）

○抵抗運動とドイツ降伏までの過程

○考えよう（個人→全体→個人）

【問い】ドイツ国内には、「白バラ抵抗運動」のような抵抗運動（レジスタンス）によってナチス政権の打倒を図った人びとがいた。しかし、ナチス政権はヒトラーが亡くなるまで存続した。こういった活動には意味があったのだろうか？

本書では、ショール兄妹らの運動内容を掲載しているが、三井さんは、さらに、その運動に対する当時の国内外の反応を調べて、教材化した。抵抗運動を断罪するもの（A・B）から、感銘を受けたと評するもの（C・D）まで、多様なラインナップである。生徒は、この資料を読み込み、【問い】を検討し、この運動を評価する。どんな議論が展開されるのか、実際に授業をしてみたいものである。昨今のロシア情勢を鑑みても、極めて重要な問いであると思う。

編集委員との応答も

学び舎は、読者との交流も大切にしてくれる。学生の教科書分析と補充教材をお送りすると、編集委員から、個人としてのコメントを丁寧に寄せてくださる。この教材に関しては、白バラ抵抗運動で当時の学生が訴えた内容を豊富に示すことこそが重要で、「逮捕・処刑という結末だからこそ、彼らが多くの人に訴えかけたことは何かということに目をむけさせたい」と教科書編集の意図をお伝えくださった。後日、このコメントを三井さんに届けさせていただいた。白バラ抵抗運動の影響・結果をもとに、この運動を評価する授業がよいのか、当時の運動を具体的にとりあげ、抵抗する人たちの姿をイメージさせることに重点を置く授業がよいのか、歴史授業づくりへの興味深い意見交流、応答ができた。



唱歌「蛍の光」で読む『ともに学ぶ人間の歴史』

大日方純夫（コアアドバイザー・早稲田大学名誉教授）

「蛍の光」の「タイムマシン」と「どこでもドア」

『唱歌「蛍の光」と帝国日本』を出版しました。卒業式などでお馴染みの唱歌「蛍の光」を軸に、日本の近現代史を考えてみようとしたものです。この本を読んだある方から、「蛍の光」が時間・空間を縦横無尽につないでいくのは“見たことのない景色”で、ドラえものの「タイムマシン」と「どこでもドア」を思い浮かべたという感想をいただきました。

以下、「蛍の光」を学び舎の教科書に重ねてみます（頁数は教科書の該当頁）。

「蛍の光」を通して何を教えようとしたか

「蛍の光」は、1882年、文部省の音楽取調掛が、スコットランド民謡に詞をつけて誕生しました。教科書190頁は「歌を通して教える」ですが、「蛍の光」は何を教えようとしたのでしょうか。今は幻となっている3番・4番の歌詞を見るとよくわかります。

3番 筑紫(つくし)のきわみ 陸(みち)の奥
海山遠く へだつとも その真心は
へだてなく ひとつにつくせ 国のため

4番 千島のおくも 沖縄も 八洲(やしま)の
内の まもりなり いたらん国に いさおしく
つとめよわがせ つつがなく

蛍雪の功を積んで、別れていく（1番・2番）。全国に別れても心をかよわせ、国のために尽くせというのです（3番）。最初の案では、4番の「内の」は、「外の」となっていました。これに対し文部省は、「外」を問題視しました。177頁にあるように、千島は1875年の樺太千島交換条約で日本領となっていました。一方、政府は1879年、軍隊と警察を派遣して琉球を日本の一部にしました。ですから、文部省にとって、千島も沖縄も日本の「内」でなければならなかったのです。「蛍の光」は、国家のためにつくせ、来襲する敵とたたかって国家の独立をまもれと、国家意識を教えよう

としていたのです。

「蛍の光」の拡大・膨張・崩壊、そして戦後

日本は日清戦争で台湾を植民地にし（185頁）、日露戦争で南樺太を領土に組み込みました（189頁）。では、「蛍の光」の4番の「千島のおくも 沖縄も」はどうなったのでしょうか。また、193頁には、朝鮮総督府が朝鮮の学校で唱歌を教えたとあります。台湾や朝鮮で「蛍の光」はどう扱われたのでしょうか。

植民地の獲得によって日本の範囲が拡大していくにつれ、4番は「台湾の果ても 樺太も」などと歌われるようになっていきました。また、植民地化のなかで、台湾に唱歌教育が導入され、「蛍の光」も歌われました。韓国・朝鮮には、「蛍の光」と同じスコットランドのメロディーが讃美歌経由で入って、独立を歌いあげる愛国歌となり、一方、日本は植民地支配のなかで、愛国歌を禁圧して、「蛍の光」を教えていきました。

満州事変を経てさらに日本が膨張していくと、「蛍の光」の4番と「日本」の範囲の矛盾が深まり、4番は次第に追放されていきます。他方、233頁にあるように、アジア太平洋戦争下、「鬼畜米英」の声が高まると、「イギリス産」の曲だとして、「蛍の光」の追放が呼びかけられていきます。

敗戦後、「蛍の光」は復活しました。しかし、3番・4番が消えるとともに、戦後処理の過程で「千島」も「沖縄」も、「八洲」の“そと”にされました（257頁）。そして、沖縄は“そと”か、“うち”か、どこまで日本なのか、今も問われているのです（267頁）。



（吉川弘文館、2022年10月）



モノから学ぶ歴史（子どもたちと学んだ世界地理の実践から）

⑨ マックからみえるアメリカ社会の歴史

瀬戸口 信一（元公立中学校教員）



第一次世界大戦後、経済大国となったアメリカでは、スーパー・コンビニ・車社会・カード社会などの大量生産・大量消費の時代が幕を開け、豊かで便利なアメリカ的生活様式が始まった。

◆ 野菜の形を知らない子どもたち

アメリカでは、野菜の形を知らない子どもが多いという。いろいろと予想させたうえでスーパーマーケットの写真を見せる。



どんなことが分かる？「冷凍食品」「加工食品」。アメリカでは、手作りの料理はせず、手軽な冷凍食品や加工食品が出てくる家庭が多い。だから加工前の本来の野菜を家庭で見る機会は少なく、野菜の形も知らない。

◆ アメリカ人が調理をしない理由は？

では、なぜ多くのアメリカ人は料理を作らないのか？と問う。「忙しい」「共働き」「めんどろ」「料理を作れない」等。

ここで、労働時間と共働き家庭の国際比較グラフを提示。アメリカ現代社会の実態（長時間労働・共働き家庭の多さ）を確認する。また、電子レンジの発明により、食品会社が様々な冷凍食品・保存食品・加工食品を作るようになり、調理をしない家庭が多くなった。

◆ アメリカ人の生活スタイルの歴史的背景



アメリカ人のこうした生活スタイルがどこから来たかの歴史的背景を映画から考えさせたい。まず、映画『大草

原の小さな家』。19 世紀西部開拓時代の豊かな食文化が育たないほどの厳しい生活が見えてくる。

次に、20 世紀初頭の『モダン=タイムス』では、時間に管理され、工場で機械の歯車のように働く労働者の姿を見せる。この時代、資本主義が大きく発展し、以来、「便利さ」「効率化」こそが、アメリカを象徴する生活スタイルとなった。

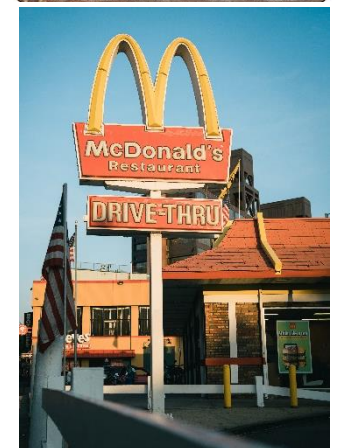
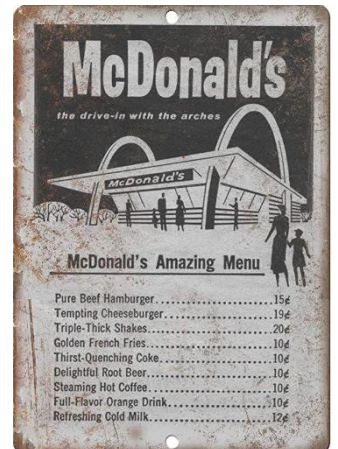
1955 年に生まれた「安い！ 旨い！ 早い！」マック。これが当時のアメリカ人の生活にぴったりのあ、アメリカ人の食生活を支える重要産業に成長した。

◆ 豚肉から牛肉への肉嗜好の変化

第二次世界大戦後、アメリカ資本主義は急速に発展し、郊外に一戸建て住宅地の開発が行われた。休日には広い庭で友達とバーベキューパーティー。以前は豚肉を食べていたが次第に牛肉に代わった。脂のついた美味しい肉を育てるために、牛に牧草ではなくトウモロコシを食べさせるようになった。こうしてアメリカ人の食生活が豚肉から牛肉に替った頃、柔らかい脂身の牛肉を大量生産し、トウモロコシを大規模栽培する現代のアメリカ農業が始まった。

マックのハンバーガーパテは、アメリカで育てられた肉の余分な脂と南米で育てられた赤みの牛肉を絶妙なバランスでミックスすることによって安くて旨いハンバーガーをつくることができた。

マックの登場とその広がり、アメリカ的生活様式が世界中に広がることの一つとなっており、私たち日本人の生活とも繋がっていることがわかる。





アジア太平洋戦争への思い その8

知られざる日泰戦争の傷跡を訪ねて

高嶋 道（元中学高校教員）

毎年12月8日には、多くの新聞やテレビで「今日は、真珠湾攻撃から始まった太平洋戦争開戦の日」と伝えています。これは史実と違います。

1941年のこの日、日本軍は真珠湾攻撃よりも1時間ほど早くイギリス軍と戦争を始めました。4日前に海南島を出航した日本の5船団のうち佗美(たくみ)支隊5503名がイギリス領マラヤの東海岸コタバルに上陸、迎え撃つイギリス軍と激戦になりました(教科書p.229の地図を参照して下さい)。

日本陸軍本隊はタイ領に侵攻

その後、日本軍の他の4つの船団はタイ領のパタニ、シンゴラ、ナコンシータマラート、チュンポン、プラチュアップ・キリカンなどに侵攻し、各地で交戦しました。日本は前年の6月「日泰親善友好条約」に調印し、タイ国の主権と中立政策の尊重を約束しているのです。明らかに国際法に違反する戦闘行為でした。

実は、バンコクの日本大使館では、7日にパーティーを開き、ビブン首相や閣僚を招き、日本軍の通過交渉を行う目論見でした。しかし首相は事態を察し、視察と称して東部国境方面に出向き、「行方不明」の名目で欠席したのです。思惑通りに通行許可を得ることはできず、8日未明に上陸した日本軍は各地でタイ軍との戦闘になったのです。朝バンコクに戻った首相は、日本軍の軍勢力を見て休戦命令を出しました。しかし、一部の地域では、無線機が破壊されていて命令が伝わらず、1日半も戦闘が続きました。中立だったタイ国は戦争に巻き込まれることになりました。日本と同盟条約を締結し、翌年には英米に宣戦布告しました。

日本軍と戦ったタイ国兵士の証言

2008年8月、私たちは日本軍の侵攻地のひとつ、プラチュアップ・キリカンを訪れ、空軍基地で戦闘に参加したシーサックさん(当時92歳)の証言を聴きました。すらりとした長身の彼は、まるで昨日のことのように語りはじめました。

1941年12月8日、私は24歳、空軍少尉でした。この日、午前4時頃、部下を連れて網を持って浜辺にいました。軍人の送別会のための魚を捕るためです。海には大きな波が立っていたので、屈んでよく見ると、沖に日本軍の上陸舟艇が見えました。沖合の島影に、輸送船が隠れていて、そこから舟艇が向かってきているのです。驚いてすぐに基地に知らせ、機関銃などで応戦しましたが、飛行場と通信室を占拠されました。

日本軍は1000人ほどが上陸、タイ軍130人ほどの闘いで、戦死者は日本兵86名、タイ側43名でした。戦闘後、タイの兵士とともに日本兵の亡骸も葬ったそうです。「日本兵の胸ポケットには家族の写真がありましたよ」との話も出て、亡き兵士に思いを馳せました。

語りつがれている戦争

日本軍の上陸した海岸で毎年12月8日に行われる式典では、タイ軍兵士とともに日本兵への追悼も行われているそうです。仏教国タイの人びとの慈しみの心に胸が熱くなりました。

また、基地内にある戦争博物館の最後の展示室は、真っ白な世界でした。中央に戦死兵士の名が刻まれています。「ここは、平和を願う部屋です」「戦争は絶対に起こしてはなりません」とシーサックさんの息子さんの強いことばに、みな頷いていました。

なお、日本軍による侵攻の前夜、バンコクでは在留日本人のうち老人と婦女子約700名が集められ、沖合に停泊中の「がんぢす丸」に乗船させられました。翌日の日本軍の侵攻による混乱に備えたのです。8日の午後6時、タイ全土に国営放送を通じて「君が代」が流れました。日本軍は1945年8月の敗戦まで、タイを兵站基地化して各地に駐留しました。日本人学校では軍国教育が徹底されました。



プラチュアップ・キリカンの追悼式

学びを深める

バトンをつなぐ中学生

第3回 平和な国際社会を君たちがつくるはず

平井 敦子（北海道公立中学校教員）

自衛隊を出してでも？！

3学期の社会科は「地球社会と私たち」。PCのアンケート機能を使い学習をはじめました。海外旅行経験、領土問題の知識とともに「外国滞在の日本人が危機に陥ったとき日本政府は自衛隊を出動してでも救出すべきか」「領土が外国に侵害されたとき自衛隊を出動させてでも奪還すべきか」という問いを仕掛けます。回答はすぐに教室のテレビにグラフ表示されます。

自衛隊を出してでも日本人を救出すべきか、領土を奪還すべきか、という問いに、そう思うという生徒が3～4割。さて、学習開始。

自国民保護？他国民保護？

パスポートに何が書いてある？国際ルールは？など教科書に準拠して学習を進めます。「日本人が危機なら…」という問いは翻って、私たちの国にいる世界各国の人々に危機が及ぶなら、と見方を変えて考えなければなりません。震災が起こったとき、外国籍だからと排斥するのか、コロナが流行したとき諸外国で日本国籍だからとワクチン接種は断られるか、もしもそれで外国軍が「自国民保護」を振りかざしてきたら…。色々考えていくと、最初のアンケート時に抱いていた印象も変わってきます。

領土問題って「怖い」？

「領土問題をどう思いますか」と街頭インタビュー風に答えてもらおうと「怖いです」「早く話し合って解決してほしいです」「すぐにでも取り戻しましょう」。「そう、みんな不安だし相手国に厳しい声があるけれど、領土問題は世界にもたくさんあってね」と解決事例を示します。中露で一触即発の戦争勃発か、と思いきや話し合いで「半分こ」した事例。国際司法裁判所で「島の領有権はコロンビア、周辺海域はニカラグア」とした例、国境線が幾度となく変わってきたインドシナで「タイ領域にあるカンボジア時代の寺院の領有はカンボジア」など。

そうやって領土問題が解決した地域は、紛争の不

安から解放され住民に平穏が戻り、交流の場として新たな産業がおこるなど、新しい「未来」の姿が見えるのです。

翻って、日本の領土問題。0～100で「我が国が正しく、相手国が不法・不当」を主張するばかり。「中国や韓国では中学生にどう教えているだろう。同じように我が国こそ正しいと教えられているとすれば解決はできるかな。」生徒は、相手国にも同様に「正論」としての主張があるなんて考えてもいなかったようです。



外交という道を考える

最後に、尖閣諸島領有は1895年、竹島領有は1905年、と示しました。北海道は1869年からですから「固有の領土」といっても近代のこと。言葉の響きで印象が固着化しているだけです。「この年号をみて気づくことは？」と、日清・日露の戦時下における「閣議決定」であることが見えてきました。

中国や韓国の目ではこの島々の領有問題がどう見えるのか。もちろん日本政府としては「戦争や講和条約とは関係ない」と主張するけれど…と言うと生徒は「そうは見えないだろうね」。「じゃあ教科書の領土問題の説明をみて。1895、1905という領有の時期や経過は書いている？」「書いてない…」。「対話するしかないんじゃないかな」「相手の主張を知ろうとしないと解決しない」「お互い100を求めないで、未来志向でやれないかな」。領土が侵害されたら、自衛隊を出してでも、と答えていた生徒たちも、見えていなかった未来の解決イメージがうっすらと見えてきたように思います。

「危ない危ない、うっかり平井先生にごまかされるところだった…と思う人がいてもいいよ。考えるのはあなたたちだからね」と授業を終えました。

連載⑪ 「仁徳天皇陵」の話

黒田 貴子（中学校講師）

戦前の国史の授業で

「天から長い矛を降ろして、海の水をかき混ぜて引きあげ、矛からぼとぼと垂れるしずくから、島が出来ました」。これは、戦前の授業で教えられた日本の始まりです。

この話のため恐ろしい思いをされたN先生の体験を中学時代に聞きました。N先生が国民学校の生徒だったとき、友だちが「そんな長い矛は、普段はどこにしまっていたのですか？」と訊いたとたん、担任は顔を真っ赤にして「この話が嘘だというのか!」と、その子を何回も殴りつけたというのです。N先生は「わたしが子どもの頃は 神話や天皇について質問しただけで、こんな目におうたんですわ。いまは、どんどん意見を言うことが、ええことなんやで。」と、しみじみと話されました。

神話と史実を見極めるということ

中学時代、考古学者になりたいという夢を抱いていた私の記憶にN先生のお話は深く刻まれました。

大阪市の歌、知ってるか？ 時々、拡声器で流しながら市の車が走ってるやろ？ 高津宮の昔より、代々の栄を重ね来て、民のかまどに立つ煙～♪ってな。あれは仁徳天皇が館から見下ろすと煮炊きの煙が見えない。人々の生活がそれほど苦しいと知って3年間税を取らんと自分の館は屋根も傷んだままにした。そしたら煮炊きする煙が上がるようになった、という話からきてるんや。

そやけどな、神武天皇から25代ぐらいまでの天皇は実在したかどうか曖昧なんや。日本という国が古くからあったように見せるため、この時代の天皇は140歳ぐらいまで生きたことになった場合もあるんや。ほんまはその頃の日本は、まだ弥生時代やったのにな。

天皇陵を見直す

社会科の教員になってから、N先生が語って下さった話がたびたび思い出されました。教科書の「仁徳天皇陵」という



大山古墳「国土交通省 国土画像情報（航空写真）」に基づいて作成

名称が、「伝・仁徳陵」そして「大山古墳」と変わっていくことに、考古学の研究成果を感じました。

江戸時代の終わり頃、天皇の権威を強めるため、それまで放ったらかしだった天皇のお墓を急に整備して誰のお墓か決めてしもたんや。神武天皇陵なんて、あるわけないから、古事記に書いてある橿原の辺りに中世のお寺の塚があったのを、これにしとこうと決めたんやて。それだけやないで。近くの丘にあった洞という被差別部落は、天皇陵を見下ろすとは畏れ多いということで、狭い土地に移されたそうや。

いま仁徳天皇陵とされている古墳も、仁徳天皇の時代とは1世紀ぐらいずれとるんや。高槻の今城塚（いましろづか）古墳が継体天皇の墓と分かってるんやけど、他の古墳が継体天皇陵になってるんや。天皇陵の発掘は許可が出ない。考古学の研究の大きな壁なんや。

大阪初の世界遺産！ともてはやされているうちに、いつの間にか「仁徳天皇陵」という名称が復活しました。戦前、神話と歴史の混同が教育を歪めたことを忘れてはなりません。歴史の偽造は、小さなことから忍び寄ってくるのですから。



読者の声

まがいものでない神話を学びたい

創刊号の保立道久さんの「神話教育」について読んで大変興味をひかれました。

歴史の根っこに存在する倭国神話には、地震火山神、高御産巢日(タカミムスヒ)がいて、ギリシア神話のゼウスと同じく雷電の使い手で、火山噴火を起こすことができるということです。人間にとって天変地異がいかに驚異で計り知れない現象であったことか！

私にとって初めての神話は、因幡の白兎でした。この神話には、騙す・騙される、報復、恐怖、傷み、後悔、反省、安堵、感謝と、実にたくさんの場面がありました。天変地異とは違って嘘をつくことから自分が被る恐ろしさは子供心に印象ふかく、それでも毛皮を剥がれて赤はだかになった兎が、悪い神にもいたぶられつつ最後には大国主命に会って救われる物語に安心し、感謝の気持ちも抱きました。

八百万の神への信仰や民話、祭り、各地の伝承の源にも神話があると感じています。

アジア太平洋戦争時に、大日本帝国が神話をイデオロギーとして政治利用し、国民を戦争に向けて鼓舞するために打ち出したいわゆる皇国史観は、倭国神話の生き活きとした神々を単純化し、省略した別のもので、これを当時の国民の殆どが信じ込まされていたことを保立さんは、「重たい事実」だとし、戦後皇国史観の解体とともに日本の文化から神話が一扫されてしまっている現状は憂うべきもの、と指摘しています。「まがいものでない神話の復活」によってすこやかな心を取り戻したい願いとして聞こえます。

神話もまた戦争の被害者です。神話が本来の形で再び日本の文化としてよみがえるということは、私たちにとって大切なことではないでしょうか。自分のこれまでの経験から考えても、自然に対して、畏れ、敬い、優しさなどを心のうちに保つことは、大変重要なことであると思います。保立さんがご紹介のHPから多くのことを学んでいます。

(東京 大口 和子)

問いを生み出す学び舎の歴史教科書を教訓に

私が、「問いを生み出す」歴史教科書に初めて出会ったのは、2006年シンガポール日本人学校中学部に派遣され時、書店で出会った中学歴史教科書であった。その教科書に、「日本は、米国に比べ経済力、軍事力が10分の1なのに、あなたが司令官なら米国と戦いますか」という問いがあった。米国との国力、軍事力、人口などの差が、図などで分かりやすく表示され、さらに神の国としての日本の歴史や武士道といった精神的な内容も記述されていた。生徒は、精神面や教育面なども含めて多面的多角的に考え、司令官としての結論を導き出していくのだらうと予想できた。

そして帰国後、『ともに学ぶ人間の歴史』にも出会った。それ以降、私は「問いを生み出す」授業こそ魅力的な授業になると思い、67歳になる現在も教壇に立っている。しかし残念なことに、学び舎の教科書からヒントを得ることができる歴史は、この数年担当したことがない。多くは公民や地理である。

ちなみに、この1月に公民分野で「問いを生み出す」と思っている次の授業を行った。その内容を簡単に紹介したい。内容は「企業の社会責任(CSR)」である。生徒への「問い」は「企業側に、CSRを配慮した生産活動を消費者側からいかに行わせるべきか」である。この「問い」を考える材料にしたのが、相反する「SHEIN(シーイン)」と「トニーズチョコロニー」の企業である。その企業の1分少々ニュースを視聴して関心度を高め、上記の「問い」を宿題とした。生徒は帰校後、スマホ、パソコンなどでさらに両社の企業を調べるといふ探求活動を行い、企業の社会責任とは何かを考えさせるのがねらいであった。

生徒はねらい通り、「破格の値段で商品を買うことができるのは、労働には見合わない一日数円の賃金、商品にまぎれて労働者のHelp meなどのサインが紛れているという出来事」などを調べ上げ、企業の人権尊重の必要性を述べていた。

(河原 紀彦)



学ぶ会からのお知らせ



●学ぶ舎が『授業づくり通信』創刊号を発行しました。

学ぶ舎は、12 ページ建ての冊子『授業づくり通信』を創刊しました。主に中学の先生方に向けて、授業実践報告や授業づくりのヒント、歴史研究者による学ぶ舎教科書紹介などの記事載せています。創刊号のラインナップは、次の通り。読んで楽しい、問いが生まれる、対話がはずむ／問いが生まれる授業づくりのヒント（編集部）／学ぶ舎教科書を使った授業実践・生徒と共同で描く町人の姿（篠宮雅代）／研究者が語る学ぶ舎教科書・各時代を生きぬいた、名も知れぬ人々への共感を！（宮瀧交二）、女性史・ジェンダー史の成果が豊かに盛り込まれた教科書（横山百合子）／中学歴史的分野を「歴史総合」につなぐ・運命を切りひらいたジョン万次郎（周藤新太郎）。今後も年2回発行していく予定です。創刊号を一部同封しました。会員の皆さまもご覧ください。

◆学ぶ会ホームページのリンク集をリニューアルしました。

学ぶ会のホームページには「リンク集」があり、日本と世界各地の博物館・資料館などのホームページにつながるようになっています。主に先生方の授業づくりや生徒たちの調べ学習に役立つように用意したのですが、会員の皆さまが歴史に関して調べる際にも役立つものと考えています。開設以来2年たち、リンクがつながらなくなっているものがありました。そこで、今回リニューアルし、あらたに42の博物館・資料館をリンク先に加えました。例えば、鎌倉歴史文化交流館、沖縄県教育委員会琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブ、種子島開発総合センター「鉄砲館」、日光東照宮、首里染織館 SUIKARA、対馬朝鮮通信使歴史館、安藤昌益資料館、国土地理院・地図と測量の科学館、中国甲午戦争博物館（中国）、全米日系人博物館（アメリカ）、ゲルニカ平和博物館（スペイン）、チャンギ博物館（シンガポール）、アジアアフリカ会議博物館（インドネシア）、キング・センター（アメリカ）、戦争と女性の人権博物館（韓国）、ウトロ平和祈念館、中帰連平和記念館などです。学ぶ会ホームページ→リンク集から入って、学ぶ舎教科書の部・章・項ごとにページを開き、該当の博物館をクリックすればつながります。ぜひ一度のぞいてみてください。

◆A2会費未納の方にもう一度振込用紙を同封しました。

A2のコースの会員で、まだ第13期の会費（3000円）の納入がお済みでない方に再度振込用紙を同封しました（すでに支払い済みの方には入れていません）。お手続きをよろしくお願いいたします。ゆうちょダイレクトも使えます。なおこの間に行き違いがあった場合はご容赦ください。

★授業ブックレット第13号を1月に発売しました。

第13号は会報で予告した内容と一部変更がありました。第1号からバックナンバーをそろえて販売しています。ご希望の方は学ぶ舎（manabisha-ek@cap.ocn.ne.jp）までご連絡ください。

▲教科書セミナーは8月、会員の集い（旧全体会）は9月に予定しています。



一般社団法人	子どもと学ぶ歴史教科書の会（略称「学ぶ会」）
事務所住所	〒190-0022 東京都立川市錦町3-1-3-605
メールアドレス	manabukai@mbm.nifty.com
ホームページ	http://www.manabisha.com
編集・発行	一般社団法人「学ぶ会」会報『つどいの樹』編集委員会